

## シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金報告書

### ■概要

開催日：2月8日

内容：先生方および在校生、卒業生を巻き込んだワークショップ

湘南台のコミュニティハウスを起点に生じたワークショッププロジェクトを単発で一度行なった。

### 0. 実験場としてのコミュニティハウスの概要

湘南台駅近くに賃貸のかたちで家を借り、住居というよりもひとが集まったり小さなセミナーやイベント、ワークショップをできるようなかたちで開放・使用している。

大学が駅からある程度遠いことや、研究室の枠を超えて集まるのに適切な場所がないこと、普通に大学生活をしていると自分の研究会やサークル以上になかなか交友関係が広がらないこと、などを今までの問題点と考えていて、よりひとが集まりやすく、SFC 外のひとにも来訪しやすい場所、コラボレーションしやすいかたちを考えて、駅の近くとした。住居の形態であることでリラックスして時間を過ごせること、時間の制約がほとんどないこと、最初の参加の敷居が低いことを挙げられる。

あとに記すワークショップ以外にも単発で在学生の新しいつながりを作るイベントを月に数回おこなった。(今後も継続予定、春休み期間だったためやや少なめだった)

- ・研究会選びに悩んでいる後輩に向けて、各研究会の取り組んでいる内容を紹介・相談
- ・AO 入試で SFC に入学が決まった高校生と交流
- ・個人研究の相談会 (普段は研究会内で完結しているものを、あえて他分野のひとと行う)
- ・残留ではないかたちで、夜通しグループワークをするスペースとして提供
- ・外国語ベーシックゼロ (すでにスキルレベルで学習している人に語学を教えてもらう)



高校生と在学生の交流会。参加者は 30 人程度で、在学生、高校生の比率は半々だった。

## 1. メインワークショップに向けての前準備

1月中旬から下旬にかけて数回、湘南台で在校生中心にアイデア出しや運営体制の整えをおこなった。合宿形式でも開催し、普段大学で会わないコミュニティのひとや、他学年のひとなど、在校生の交流を促進することができた。

## 2. 当日（2月8日）

慶應義塾大学三田キャンパス社会イノベーションコース施設をお借りして、3時間程度のトークセッションおよびワークショップをおこなった。湘南台のスペースと直接の関係はないが、先生方のその日の都合上（すでに秋学期授業が終了していたので）都内で場所を探すことになり、大学の施設となった。

ゲストとして井庭崇先生（総合政策部准教授）と井上英之先生（総合政策学部専任講師）のふたりを招いて、対話を聞きつつSFCや大学教育、日本や世界のこれからについて考える会となった。



参加者は在校生と卒業生と半分ずつくらい、合計 20 名程度であった。一方的ではなく、参加者それぞれが自分たちの問題に引きつけて考えることができ、その場で意気投合して次につながっていく関係性を築くこともできた。

### ■成果と展望

・在校生同士のネットワークを作る契機や場所になった。学期末ということもあったのでなかなか巻き込みにくかった部分もあったので、次年度は違う方向からも広げていける方法を模索しようと思う。

・卒業生と大学をつなぐひとつのパイプになれた。研究会やサークルだけに留まらない縦の関係を作っていくための方法を教員や卒業生の協力的なひとと考えていきたい。ニーズは実際にあり、きっかけの作り方によってはより効果的にリーチできる予感がある。

・大学だけで学びを完結させるのではなく、コラボレーションやシェアを見据えて「課外授業」的な場所を提供するイメージが固まった。「先生の名前のない研究室」として機能させていくことで、より SFC らしい学びを考え実践することができるのではないか。